坂出祥伸著『道教と東南アジア華人社會 ―その信仰と親族的結合―』

吉野　晃

著者は平成十二～十四年度科研費補助金基盤研究（B）（1）「道教的密教的辟邪呪物の調査・研究」により東南アジア・臺灣・南中國において調査を行い、その成果は大形徹・坂出祥伸・賴富本宏(編)二〇〇五『道教的密教的辟邪呪物の調査・研究』（ビイング・ネット・プレス）として出版された。本書はこの調査研究の副産物である。調査研究で訪れた廟や會館等の訪問記とそこで見聞した宗教設備や辟邪物に關する見聞記が主となっているが、著者はそれらの裏に漢民族の宗族を讀み込んでゆく。エッセイ風の訪問記・見聞記に、文獻學に裏打ちされた論考を交え、一般向けの本ながら部分的には専門的な論考も覗える書となっている。

本書の構成は以下の通りである。

第Ⅰ部　道教とは、宗族とは
1道教とはなにか
2民間における儒教と道教
3宗族とはなにか
4宗族と復讐
第Ⅱ部　各地の道教と宗族

『道教と東南アジア華人社會―その信仰と親族的結合―』

1バンコク・ペナン・マラッカ・クアラルンプール華人街の道教
2シンガポール華人の住居・墓地・會館・宮廟
【附】華鄉としての厦門・泉州・香港の道教と宮廟
3マニラ華人街の道教・同鄉會館・宗親會
【附】華鄉としての晉江、厦門の道教と墓地
【附】マニラ華人社會の結合力―同鄉會館・宗親會―
4金門島と鹿港の道教宮廟

總括　東南アジア華人社會の道教信仰と宗族的結合
―タイ・マレーシア・シンガポール・フィリピン―

第Ⅰ部は道教と宗族に關する入門的解説である。それぞれの節はもともと別のエッセイであるので、述べている內容が部分的に重複している。そのため章ごとにわけず、トピックごとに內容を整理し紹介する。

道教　氣の運動に身を委ね救濟を求めるのが道教の原初的な形態である。本來は自力救濟の宗教であったが、後に幾多の宗教運動として展開し、不老長生のみならず、個人的救濟も社會的救濟も扱う宗教となった。關帝や媽祖のような民間信仰の神々の祭祀も道士が管轄しており、民俗宗教にも道士が關わっている。儒教が士大夫や官僚の立場を示しているのに對し、民衆の生活に寄り添い信仰されてきたのは道教なのである。

宗族　父子は氣を同じくしており、父系の祖先と子孫の氣も同一であるため感應する。宗族はこうした父系の同一の氣を持つ人々の集團である。宋代に科擧制による官僚軆制が成立すると、古來の宗族制が再編され、今日のような宗族組織となってきた。そうした明清以降の宗族の道具立ては、宗祠・族產・宗譜・宗規である。族規にみられる宗族內自治は一面で個人の獨立を抑壓する。そのため、文化大革命で破壞對象とされたが、近年の復活にみられるように根强さがある。宗族は對內的な相互扶助・親睦と對外的な競爭・復讐の兩側面を持つ。このような宗族の個別利害と國家の共同利害とは矛盾するものでもある。漢民族の實態的な組織は宗族制であり、宗族の同族原理が擴大された宗親

會は國境を越えた世界的組織を作り上げるまでに到っている。

孝　孝は、宗族の實踐規範であり、祖先の偉業を受け繼ぎ更に成功することである。この點で日本人の考える「孝」とは根本的に異なる。宗族制・孝・祖先祭祀は儒教に固有ではなく、漢民族の社會に共通したものである。

呪符　宗族の繁榮を確かなものとして保證するための方法が呪術であり、呪符はそのうちの一つである。

II部　各地の同郷と宗族　第II部では、東南アジアや臺灣、中國南部の調査地における訪問記が綴られ、隨時考察が入る。各地における訪問先は以下の通りである。

1　バンコク・ペナン・マラッカ・クアラルンプール華人街の道教　バンコクの大本頭公廟、新本頭公廟、本頭媽廟、報德善堂、呂帝廟、玄天上帝廟。更に「本頭公」の由來を檢討している。マレーシアでは、ペナンの清水祖師、天公壇、拿督公、マラッカの和勝宮、北添宮、眞空教道堂、クアラルンプールの南天宮、仙師四師宮、宗賢堂、宗聖堂、華人墓地、玄眞胡堂院、馬來西亞福建社團聯合會。華人社會での人間關係は宗族よりも會館が重んじられていることが指摘されている。

2　シンガポール華人の住居・墓地・會館・宮廟　シンガポールについては、ショップハウスなどの建築物および華人墓地について見聞記が綴られている。會館や宗族、道教關連では以下の施設を訪問している。福建會館、晉江會館、江夏黃氏公會、白氏公會、孫氏公會、陳氏宗祠、白氏宗祠、城隍廟、金蘭廟、麟山亭、大伯公、東嶽大帝、玉皇殿、玉皇大帝、孔子公、鳳山寺、南安會館、保赤宮、新加坡道教總會。

【附】華鄉としての厦門・泉州・香港の道教と宮廟　厦門の青礁慈濟宮など、泉州の富美宮、安溪の清水巖祖師廟など、香港の省善眞堂、青松觀、蓬瀛仙館、黃大仙廟、澳門の媽祖閣、哪吒古廟など。香港省善眞堂では扶乩を觀察している。

3　マニラ華人街の同鄉・同鄉會館・宗親會　マニラ

の寶泉庵正爐、石獅城隍廟、天后宮、青陽石鼓廟、九霄大道觀、大道玄壇、泰玄都總壇、臨濮堂宗祠（施氏）、華僑義山。

【附】華鄉としての晉江、厦門の道教と墓地　晉江の崇眞殿、寶泉庵、莊氏家廟。衙口の施氏家廟。錢江の施氏家廟。厦門の公墓。

【附】マニラ華人社會の結合力―同鄉會館・宗親會―旅菲臨濮堂宗祠、石獅城隍廟、寶泉庵正爐、青陽石鼓廟、九宵大道觀、泰玄都總壇。

4　金門島と鹿港の道教宮廟　金門島の家廟、城隍廟。護符（鎮宅符、剪刀符、牆角安角附）觀察。鹿港の玉渠宮、田都元帥。

總括　東南アジア華人社會の道教信仰と宗族的結合

最終章では第Ⅱ部における見聞記を踏まえていくつかの點を指摘している。一、東南アジアへ移住した華人たちは、鄉土で信仰していた神佛を帶來あるいは招來して祀り、それが街や集落の中心となった。それは多神信仰の樣相を呈している。二、それらの神佛に對する祭祀が現地の宗教民俗と習合して拿督公などの新たな信仰形態を生じている。また、仙四爺のように現地の移住華人が創始した信仰もある。三、福建の宗祠家廟では位牌のみ祀り、神佛を祀っていないが、東南アジアの宗祠には位牌の他に樣々な神佛が祀られている。四、マレーシアとシンガポールでは儒・佛・道の三教合一（乃至三教以外も合一）の民間信仰が活潑である。

以上、概要を紹介した。最初にも述べたように、本書は一般向けの書であり、專門的な記述としてはやや曖昧な部分が殘る。例えば、宗族の事例として宗親會が度々出てくるが、著者も宗親會を「疑似宗族」（七四～七五頁）と言っているように、宗族と宗親會は似ているが別物である（六〇頁、七二頁～七五頁、一二三頁～一二四頁）。宗族が親族的系譜關係に基づく親族集團であるのに對し、宗親會は宗族をモデルとしているものの、親族關係を確認できない部分を含んだ同姓の疑似親族集團である。しかし、劉氏宗親會（三三頁～三四頁）と鄭氏宗親會（六〇頁）の記述では、宗族の基本構成について述

べた直後に宗親會の事例や宗親會の大宗譜などを紹介しているので、宗族と宗親會との區別が讀者にはつきにくい。東南アジアにおいては、現地に華人が定住して多くの世代を經るには到っていない。三～四世代では宗族そのものを形成するには十分な世代數とは言えず、親族による宗族の形成は難しい。しかし、何らかのつながりに基づいて自衞自存の爲の組織を作り上げる必要があった。その結果が宗親會という形で顯現する。これは臺灣にも同樣の事情がある。また、東南アジア華人社會において、會館などの同鄕集團の活動が目立つこともこうした事情に關わっている。こうした點をもう少し詳しく說明していただきたかった。

また、宗族は同じ父系の氣を共有するものとされるが、それが「血」の連續とされる（三〇頁～三一頁、七一頁）。しかし、南中國の民族誌によれば、子が父から受け繼ぐのは骨であり、骨が父系的に連續するものとして民間では認識されていた。[1]「血」とする資料もあるだろうし、日本人讀者には「血」で說明した方がわかりやすいのであろうが、一方で「男骨女血」といった觀念も根强かったので、こうした點にも言及していただければ、身體的親族關係の日中の違いも際だったのではないだろうか。

いくつか氣になる點を指摘したが、宗族・宗親會について日本人讀者にわかりやすいように說いた讀み物である。先にも述べたように、調査の訪問記でもあり、多くのエッセイをまとめたため體系的な構成にはなっていないが、氣輕に讀み進めることができ、且つ專門的にも重要な指摘が隨所にある。これまでも、道教と宗族それぞれに關する解說書や研究書は數多出ているものの、この兩者を結びつけて述べた本は少ない。道教などの宗教研究では經文・教義の研究や儀禮の次第の調査などに多く關心が寄せられるが、そうした經文を用いた儀禮を主催する組織の探究も亦た必要であることをこの本は示している。この本で宗族や宗親會に關心を持った讀者には、瀨川昌久 二〇〇四『中國社會の人類學―親族・家族からの展望―』（世界思想社）・瀨川昌久(編)二〇一六『〈宗族〉と中國社會―その變貌と人類學的研究の現在―』や

『道教と東南アジア華人社會―その信仰と親族的結合―』

吉原和男ほか（編）二〇〇〇『〈血縁〉の再構築―東アジアにおける父系出自と同姓結合―』（風響社）などを讀み進めることをお勧めする。本書は、そうした探究のきっかけになる書である。

（B6判、二一二頁、二〇一三年六月、東方書店、一七〇〇圓（税別））

註

（1）フリードマン、M・一九八七『中國の宗族と社會』（田村克己・瀬川昌久譯）弘文堂、一七八頁～一七九頁、渡邊欣雄 一九九〇『風水思想と東アジア』人文書院、一三五頁～一三六頁など。

寄稿規程

編集委員會

一、寄稿者は本學會員に限ります。
二、枚數制限は以下のとおりです。必ず完全原稿でお願いいたします。
　論考　四百字詰四十枚程度
　研究ノート　四百字詰二十枚程度
　書評・新刊紹介　四百字詰十枚程度
　國際學界動向　四百字詰十枚程度
　なお、論文寄稿の場合には、左記の論文要旨を添附してください。
　○外國語による論文要旨
　　要旨の作成は原著者に一任いたしますが、編集委員會が校訂する場合があります。外國語は原則として英語とし、語數は三百語程度とします。中國語表記はウェード方式、あるいは拼音（ピンイン）方式でお願いいたします。
　○外國語による論文要旨の日本語原文
　　投稿に際してはホームページ上の寄稿要項、原稿整理票を參照してください。
　○本誌に掲載された原稿は、發行より三年經過した後にウェブ上にて公開されます。ウェブでの公開を承諾されない方は投稿時にお知らせ下さい。
　　なお公開される場合も著作權は執筆者にあります。（詳しくはホームページをご覽ください。）
三、**原稿締切は、六月二十日、十二月二十日といたします。**
四、内容は未發表のものに限ります。採否は、當學會に御一任ください。
五、抜刷を御希望の方は、有償でPDFファイルまたは印刷冊子を作成いたします。
六、特殊製版（圖版・寫眞版など）、組み替えなどの費用は寄稿者の負擔となります。

送付先　〒599-8531　大阪府堺市中區學園町一―一
大阪府立大學人間社會學研究科大形徹研究室内
日本道教學會事務局
電話　〇七二―二五四―九六二二
E-mail: info@taoistic-research.jp